

修士論文（要旨）

2010年1月

詫び表現の中日対照研究

指導 新屋映子 教授

国際学研究科

言語教育専攻

207J4905

暴暁

目次

第1章	研究の背景と目的	1
1.1	研究の背景	1
1.2	研究の目的	1
第2章	先行研究	2
2.1	詫びの定義と分類	2
2.2	日本語の詫び表現に関する先行研究	4
2.3	中国語の詫び表現に関する先行研究	8
2.4	詫び表現の中日対照に関する先行研究	10
2.5	中国人日本語学習者の詫び表現に関する先行研究	11
第3章	本研究における詫びの定義と表現	12
3.1	本研究における詫びの定義	12
3.2	詫び表現の分類	12
3.2.1	日本語の場合	12
3.2.2	中国語の場合	13
第4章	予備調査	14
4.1	予備調査の概要	14
4.2	予備調査の結果	17
第5章	本調査の概要	25
5.1	調査協力者	25
5.2	調査方法	26
5.3	文字化方式	30
5.4	中国語発話文の日本語訳ルール	31
5.5	場面設定における詫びの負担度の分類/設定基準	32
第6章	調査結果と分析	33
6.1	謝罪発話の構成と機能	33
6.2	詫び方略の種類	35
6.3	定型表現の分析（親疎関係・上下関係・詫びの負担度を基準に）	39
6.4	詫び方略からの分析	44
6.5	詫びの談話開始部及び談話結尾部の分析	50
第7章	詫び行為と文化	54
7.1	中国人のメンツ意識	55
7.2	日中の比較	55
7.3	社会文化理解の面（親疎関係・上下関係・詫び負担度の影響）	55
7.4	中国人留学生の詫び表現	56
第8章	まとめと今後の課題	60
	謝辞	
	参考文献	

要旨

日本に来る中国人留学生が増えつつある現在、生活やアルバイトの場で日本人と接触した時に、文化的背景等の違いから生ずるコミュニケーション摩擦に直面する留学生も少なくない。特に、中国人と日本人の間では、謝る・謝らないを原因とするミス・コミュニケーションがよく起こる。稿者自身も、多くの日本人から「中国人は本当に謝らないね」と言われて困惑したことがある。果たして中国人は本当に謝らないのであろうか。もし謝らないとしたら、謝罪の気持ちはどのように伝えているのであろうか。稿者はこうした疑問から中日両言語における詫びのありかた、また対人関係における詫びの役割について研究するに至った。

本研究では、日本人と中国人の謝罪行為を比較することを目的とした。謝罪行為の比較は、日本語母語話者の日本語による謝罪、中国語母語話者の中国語による謝罪、および中国語を母語とする日本語学習者の日本語による謝罪という3つの観点から行い、それぞれどのような詫び表現と詫び方略を使用しているかについて分析・考察をした。

本調査では、まず、中国人、日本人、留学生の詫び表現及び詫び方略の異同を明らかにするために、詫び表現が出現すると予測したロールプレイを行った。調査協力者が日常生活で遭遇する可能性が高い場面を三つ選んで、設定した。また、詫びる人と詫びられる人を親疎関係、上下関係、詫びの負担度によって分け、調査協力者がどのような詫び表現と方略を選ぶか分析した。その結果から中日の詫び表現の特徴を導き出すことで、留学生の詫び表現を考察し、日本人にとって違和感のある表現や行動等を探ることができると考えたからである。ロールプレイの内容と結果を基に、協力者全員へのフォローアップインタビューも実施した。インタビューの内容は詫び表現、中日社会文化、親疎関係、上下関係等の問題についてである。

以上で得たデータと結果を用いて、三者の詫び表現の使用状況と使用率を算出し、謝罪における発話の機能分類を行い、中国人、日本人、留学生の詫び方略について考察した。また、詫び表現の使われ方と中日の文化的違いとの関連を探るために、詫びに影響する社会文化的要因についても考察し、留学生のコミュニケーションスタイルの背景にある母国文化や社会の影響を明らかにした。その結果は以下のように整理される。

- ① 中国人が同年輩の親しい友達に対して一番多く用いた定型的な詫び表現は“不好意思”グループ（ごめん）であり、親しくない、目上の先生に対して一番多く用いた定型表現は“对不起”グループ（すまない）および“抱歉”グループ（申し訳ない）であった。それに対し、“不好意思”グループは使われなかった。定型表現の使用率に中国人同士の間での上下関係における言葉使いの違いが明確に示されていることが分かった。
- ② 日本人は親疎関係、上下関係にかかわらず定型表現の使用率が高い。親しい友達に対して一番多く用いた定型表現のグループは「ごめん」グループである。先生に対しては、丁寧な詫び表現を用いており、「すまない」グループと「申し訳ない」グループが圧倒的に多い。また、先生に対しては、全員丁寧体であり、友達に対しては普通体であった。このように、日本人は詫びの語彙の種類を選択と敬語の使用について、相手との親疎関係、上下関係によって使い分けられていると考えられる。また、

先輩に対しては、日本人は「申し訳ない」グループの使用率が中国人よりかなり高い。日本の大学における上下関係の差が、中国のそれに比べて明確なために、このような結果になったと思われる。

- ③ 留学生が友達に対して、「すまない」グループと「ごめん」グループを使う率はほぼ同じである。相手は日本人であるため、悪い印象を与えないように、「すみません」と詫げる人が多く現れたものと思われる。また、先生に対しての、「申し訳ない」グループの使用率が、中国人と日本人より相当に高い。このことは、留学生が上下の関係を、より丁寧な「申し訳ない」グループと、よりくだけた「ごめん」グループとの使い分けによって表現していることを示唆しているとも考えられる。
- ④ 詫げるの負担度が高い場合には、中国人は「直接自分の過失を告白する」のに対し、日本人は「話の目的を暗示する」、「記憶喚起」などの「前置き」表現を好んで用いた。一方、中国人は「被害・処置の伺い」、「損害修復の試み」、「補償の申し出」などの詫げる方略を使用することが多い。中国人は詫げる表現より相手に及ぼした被害の解決方法を重視することが分かった。
- ⑤ 詫げる表現に関して、何でも先に詫げる日本人とは対照的に、中国人は経緯等の説明の後で詫げるをするため、日本人には詫げるをせず言い訳をするとのイメージを持たれる恐れがある。
- ⑥ 中国人は何か過失を犯した時に、「正当な理由を論理的に訴えれば相手が納得する」という文化的コミュニケーションスタイルを持っているが、日本人は「理由はともかく間違いを犯したり、人に迷惑をかけたしたりしたら、まず謝る」という人間関係モードを大切にしているコミュニケーションスタイルを持っていると思われる。

なお、今回の調査は、ロールプレイの調査人数が少ないことで、個人差が現れ、見えてきたものに偏りがあったことが反省すべき点である。また、調査協力者を大学生、大学院生に限定したため、調査結果もおのずと大学生、大学院生という年齢層の言語意識を反映したものになった。アルバイト先での詫げる表現、会社での上司に対する詫げる表現など社会的場面を取り入れることも、今後の課題にしたい。

参考文献

- 宇佐美洋 (2005) 「友人間での謝罪時に用いられる語用論的方策—日本語母語話者と中国語母語話者の比較」『語用論研究』7号 pp. 31-44
- 大淵憲一・鈴木麻里子・高橋亜紀子・斉藤麻貴子 (1999) 「日本人の謝罪傾向の起源—比較文化的発達研究—」平成8年度稲盛財団助成金研究報告書 東北大学文学部
- 熊谷智子 (1993) 「研究対象としての謝罪—いくつかの切口について—」『日本語学』12巻11号 pp. 4-12
- 熊取谷哲夫 (1993) 「発話行為対照研究のための総合的アプローチ—日英語の『詫び』を例に—」『日本語教育』79号 pp. 26-39
- 鮫島重喜 (1998) 「コミュニケーションタスクにおける日本語学習者の定型表現・文末表現の習得過程—中国語話者の「依頼」「断り」「謝罪」の場合—」『日本語教育』98号 pp. 73-84 日本語教育学会
- 柴田庄一・山口和代 (2002) 「日本語習得における人間関係の認知と文化的要因に関する考察—中国人及び台湾人留学生を対象として—」『名古屋大学大学院国際開発研究科博士論文』 pp. 141-157
- 谷口龍子 (2009) 「詫びおよび感謝表現の日中対照分析：談話構造から見た機能とポライトネス」国際基督教大学博士論文
- 張群 (2008) 「詫び表現の日中対照研究 —ポライトネスの観点から—」麗澤大学大学院言語教育研究科修士論文
- 張平 (2005) 「中国語の配慮表現—日本語と比較して—」『多言語多文化時代の文化リテラシー—配慮表現をめぐる—』桜美林大学公開講座「配慮」研究会 pp. 45-63
- 中居順子 (2001) 「『日本のコミュニケーション能力』の基礎的研究」明海大学大学院博士前期課程 応用言語学研究科 言語教育コース
- 中道真木男・土井真美 (1993) 「日本語教育における謝罪の扱い」『日本語学』12巻11号 pp. 66-74、明治書院、東京
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- 彭国躍 (1992) 「『謝罪』行為の遂行とその社会的相関性について—中日社会語用論的比較研究—」『大阪大学日本学報』11号 pp. 63-81
- 彭国躍 (2005) 「中国語の謝罪発話行為のコンテクスト制約—大学生の言語意識調査に基づいて—」『開篇』24号 pp. 200-212
- 楊雪丹 (2008) 「パソコンメールに見られる依頼の日中対照研究」桜美林大学大学院国際学研究科修士論文
- 吉成祐子 (2005) 「謝罪表現と事態認識に関する—考察—」『日本語教育論集』第14号 pp. 49-56 姫路獨協大学
- 参考サイト (2009年1月10日現在)

国 際 交 流 基

金：<http://www.jpfr.go.jp/j/japanese/survey/country/2007-2008/china.html>

日本学生支援機構：http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data09.html

